

(ホームページ掲載日：令和5年8月8日)

開催日及び場所		令和5年6月28日(水) 横浜植物防疫所会議室		
委員		田中 康晃(弁護士) 嶋矢 剛(公認会計士) 中曽根玲子(大学教授)		
審議対象期間		令和4年10月1日～令和5年3月31日		
審議対象案件		25件 うち、1者応札案件 9件 契約の相手方が公益法人等の案件 0件		
抽出案件		9件 うち、1者応札案件 0件 (抽出率36%) (抽出率0%) 契約の相手方が公益法人等の案件 0件 (抽出率0%)		
抽出案件内訳	工事	一般競争	—	
		指名競争	公募型指名競争	—
			工事希望型競争	—
			その他の指名競争	—
			随意契約	—
	業務	一般競争	—	
		指名競争	公募型競争	—
			簡易公募型競争	—
			その他の指名競争	—
		随意契約	公募型プロポーザル	—
			簡易公募型プロポーザル	—
			標準型プロポーザル	—
	その他の随意契約		—	
	物品・役務等	一般競争	9件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益法人等の案件 0件	
		指名競争	—	
		随意契約(企画競争・公募)	—	
		随意契約(その他)	—	
(特記事項)		特になし		
委員からの意見・質問、それに対する回答等		意見・質問	回答等	
		<p>ガス検知警報器外保守点検業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回参加した二者以外にこのような機器を製造している業者はないのか。 ・販売だけでなく、保守や点検についても販売代理店に限られるのか。 ・このようなガス検知警報器などの保守点検は毎年行っているのか。 <p>分析点検業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の実績にある応札者二者は今回の応札者と同じか。 ・事前見積を辞退している業者が入札に参加している理由は。 ・契約期間が令和5年1月～3月末ということも業者の参加が少ない一因になるのでは。契約期間に余裕を設けることでより多くの業者が参加できることも考えられるので、一考願いたい。 <p>事務用回転椅子26脚売買契約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な事務用品の売買契約ということで、ほかの事案と比べて応札者も多いが売買対象が事務用回転椅子となると大企業も参加する印象があるが。 ・納品されるものがどこのメーカーの製品なのか事前にかかるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回参加した二者は、いずれも機器の製造業者ではなく販売代理店である。今回の入札ではガス検知器だけでなく、様々な理化学機器の点検も求めて行っており、これら全てに対応できたのが今回参加した二者だけであったものと思われる。 ・単純な部品交換のみではなく、センサーの校正などの高度な作業も含まれるため、機器に対する詳細な知識を持った販売代理店でないと対応が難しい。 ・毎年行っている。令和2年度以前は検査対象台数の都合から随意契約をしていたが、令和3年度以降は一般競争入札を実施している。 ・そのとおり。機器の専門性・特殊性の都合から、販売代理店である業者等に限られる。 ・事前見積依頼当時は業務多忙のため対応できなかったようだ。 ・努力する。 ・契約の規模感にもよるかと思う。植物防疫所での調達にそのような企業が関わってきた印象はなく、それらの販売代理店が参加してきている。今回の応札者も販売代理店である。 ・落札者が決まらないとわからないが、参考機種以外のものを納品したいという提案があれば、事前にカタログ等を提出させ問題がないか確認している。 	

	<p>光波干渉式ガスモニター 4 台売買契約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光波干渉式ガスモニターというのは取扱いが難しいような特殊な機器なのか。具体的にはどのような用途の機器なのか。 ・過去の実績を見ると別の業者（二者ほど）が落札していることもあるが、今回この業者が入札に参加していない理由は何か。 <p>超遠心機用スイングローター外 4 点売買契約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5 点の機器をまとめて購入しているが、各品目ごとに納品先が違う。もし、納品先ごとに契約を分けていけば今回の応札者である業者（二者）以外の業者も参加できたのでは。業務の効率性や予定価格も踏まえたうえで無理のない範囲で配慮を検討してみしてほしい。 ・超遠心機用スイングローターのみ同等品の納品不可となっているが、こういったものをほかの物品と一括して調達すると応札可能業者も狭まる一因かと思うので工夫してみしてほしい。 ・契約金も高額であるし契約の切り分けが十分できるものとも思う。 <p>生物顕微鏡外 1 点売買契約</p> <p>物品に対する諸外国要求事項等の情報収集請負業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の案件を見ると、このような業務に応じられるような業者は限られると思うが選定は難しくなかったか。 ・今回は提案型の入札となっているが、それにしてはタイムスパンが厳しいように見られる。対応できる業者が少ないわけでないのであれば、時間にもう少し余裕を持たせられれば参加できる業者も増えたのでは。 <p>物品に対する新たな検疫制度のデジタル広報業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の広報効果はどうだったか。 ・こういった広報業務では下請け業者へ実際の業務が流されるのが常であるが、再委託禁止の使用によりそういった事態を防げているのはよい取組だと思う。 <p>動植物検疫制度案内のための航空機内アナウンス原稿翻訳及び録音業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翻訳する文章にそれほど分量があるように見えないが、他の業者が参加できなかった原因は考えられるか。 ・単なる文章の翻訳だけではなく、音声アナウンスの吹込みがあるのも原因ではないか。母国語話者によるチェックや過去の同様業務の実績が求められるなど、仕様のハードルの高さも考えられる。今後も同様の翻訳業務が発生する可能性はあるのか。 ・このような多言語での周知はよい取組だと思うので、ぜひ適正な入札になるよう配慮し続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回応札した業者のように理化学機器の販売代理店でない取り扱いできない機器であり、一般に販売されているものではない。用途として、不合格品をくん蒸処理した際の施設内の残留ガスの濃度を測定するための機器である。 ・各業者により専門分野もあり、また今回のような特殊な機器の調達となると植物防疫所の検疫業務への深い理解も求められるため、参加できる業者も限られるものと思われる。 <ul style="list-style-type: none"> ・検討する <ul style="list-style-type: none"> ・他機関の取引先をみるとこのような業務に対応できる業者は少ないわけではなかった。 ・時間的な制約が厳しかったのは承知している。多くの業者が参加できるよう調査内容の調整なども行ったものの、今後の課題としたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・HPへのアクセス数も以前の 2 0 倍程度に増えるなど、大変な効果があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・応札者は一者であるが、実際には入札説明書を取りに来たものの入札参加を辞退した業者もあった。翻訳する文章量ではなく、翻訳対象が 1 6 言語と幅広いものだったことが要因かと思われる。 ・検疫制度に変更があり、その周知の必要性があればありうる。
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p> <p>[これらに対し所長が講じた措置]</p>	<p>特になし</p>	

(注)公益社団法人等とは、公益社団法人又は公益財団法人（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 4 2 条第 1 項に規定する特例社団法人又は特例財団法人を含む。）をいう。